

特集

IoT時代に知っておきたい
これからの設計データ管理

解説3

機動力をもってIoTを味方にするための、シンプルなデータ管理
～世界で最も活用されているモノづくりの共通言語：SOLIDWORKS～

ソリッドワークス・ジャパン 吉田 聡*

*よしだ さとる：マーケティング部 ポートフォリオイントロダクションスペシャリスト <http://www.solidworks.co.jp/>

1. はじめに

多くのモノづくり企業において、3次元CADが活用されるようになった。当社が毎年実施している独自調査(図1)によると、一般的に製造業における「CAD」は2次元CADと3次元CADの両方を指し、実際の現場でも2次元CADと3次元CADを状況に応じて使い分ける企業が全体の65.5%(ほぼ3社中2社)を超えている。必然的に、従来

の2次元CADデータや帳票管理だけでなく、3次元CADを合わせた、新たなデータ管理手法の確立が必要とされている。

「企業の知的財産を管理し、共有し、新たなモノづくりに活用することはとても重要だ」と言ってみれば、ほとんどの人が同意するだろう。そして、知的財産を管理・共有・活用するためにデータ管理システムを導入する企業も増加し続けている。しかし、運用の現場を見ると日々のデータの「管理」が精一杯、関係者に正しく「共有」され

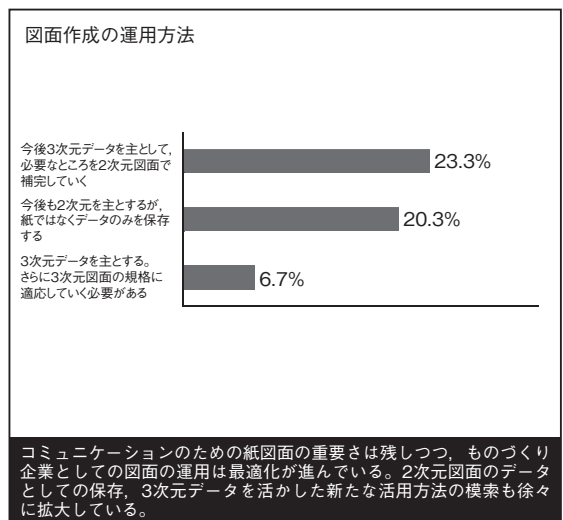
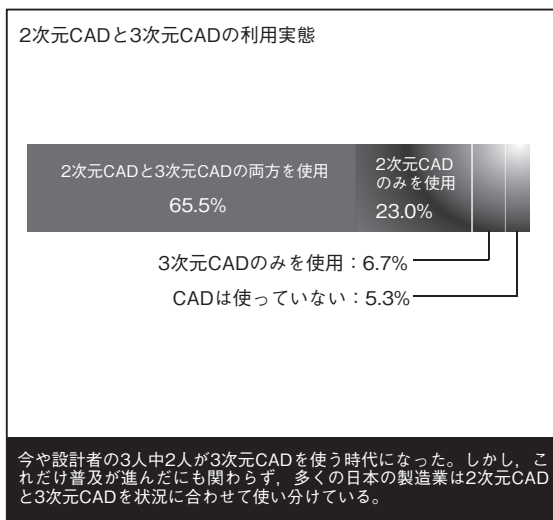


図1 「2次元CADと3次元CADの利用実態」と「図面作成の運用方法」に関するアンケート結果
(2015年8月 日本全国の製造業の課長職以上300名に対するオンライン調査より)